2026 年 11 月 12 日
株式会社博報堂ＤＹホールディングス
株式会社博報堂テクノロジーズ
株式会社博報堂デザイン

博報堂テクノロジーズと博報堂デザイン
ブランディング AI ソリューション「brandlogue（ブランドローグ）」を共同開発

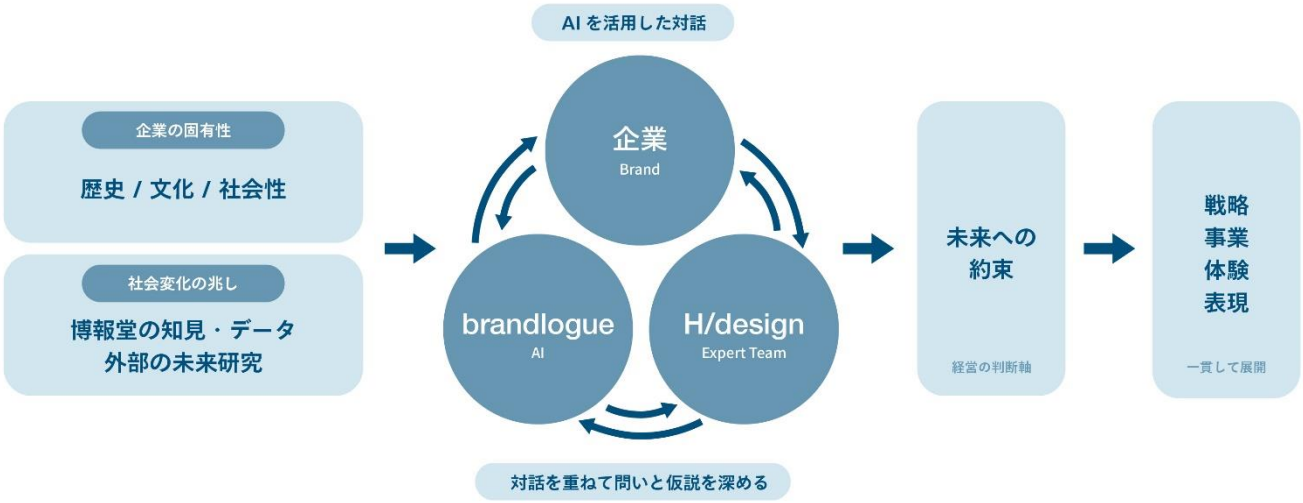
―企業の固有性と社会変化の兆しを結びつけ、

AI 活用と対話を通じて、ブランドの未来像と経営のぶれない判断軸づくりを支援―

博報堂ＤＹグループの株式会社博報堂テクノロジーズ（本社：東京都港区、代表取締役社長：田中 雄三、以下 博報堂テクノロジーズ）と、株式会社博報堂デザイン（本社：東京都港区、代表取締役社長：永井 一史 、以下 博報堂デザイン）は、ブランディング AI ソリューション、「brandlogue（ブランドローグ）」を共同開発しました。
博報堂デザインの専門チームが伴走するブランディングプロジェクトに組み込み、AI が提示する複数の未来仮説を材料に、クライアント企業が対話を通じてブランドの方向性を検討・判断するプロセスを支援します。

■開発背景
社会や市場が大きく変化する中、企業には「自分たちは何者で、どこへ向かうべきか」を示す経営の明確な指針が求められています。今、改めて重要なのは「多様な変化の兆しを捉え、自社が目指すべき未来を人が見極め、納得して選び取ること」です。
こうした課題に応えるため、博報堂デザインのブランディングの実践知と、博報堂テクノロジーズの AI 技術を融合。社会変化の兆しと自社の可能性を掛け合わせ、「客観的で説得力のある未来の選択肢」を素早く導き出しながら、対話を通じてぶれない経営の判断軸を定める新たなブランディングソリューションとして実装しました。

■brandlogue （ブランドローグ）とは
企業をその歴史性・文化性・社会性から読み解き、博報堂ＤＹグループ独自の「未来洞察(※1)の手法」や「生活者に関する調査データ」、また外部の未来研究や社会変化に関する情報と掛け合わせ、ブランドが未来において果たし得る役割を複数の仮説として提示します。その材料をもとに、クライアント企業と専門チームが対話を重ね、「何を捨て、何を守り、何を強化・付加するか」を検討し、企業自らがブランドの方向性を判断し、未来に向けた約束を明確にします。それを経営のぶれない判断軸として、ブランド戦略から事業・顧客体験・組織・社会的役割、表現まで一貫性を持って展開することを支援します。



「brandlogue」は、brand と dialogue を掛け合わせた名称です。ブランドの未来についての対話を重ねることで、経営に資する未来のブランドづくりを実現します。
企業と社会、現在と未来についての対話、経営層と社員、人と AI の間の対話を生み出し、ブランドの可能性を一つの答えに閉じずに考え続ける場を表しています。

経営者、経営企画部門、ブランド責任者、事業責任者などに対して、中期経営計画やパーパスの見直し、社名変更・周年・M&A・事業再編、新規事業や新ブランドの立ち上げ、既存ブランドの再定義などでの活用を目指します。



画面イメージ

■brandlogue （ブランドローグ）とは

1. **論理とデータに裏打ちされた「確固たるブランド未来像」の描出**
   社会変化の兆しと企業の固有性を AI が多角的に分析・掛け合わせることで、客観的な論理とデータに裏打ちされた複数のブランドの未来仮説を提示します。「なぜその未来を目指すのか」という背景と選定プロセスが明確になるため、中期経営計画の策定やステークホルダーへの情報開示においても、極めて信頼性の高い判断軸として機能します。
2. **「対話と判断」に時間を集中させることによる、解像度と納得感の向上**
   情報収集や初期仮説構築の時間を AI によって大幅に短縮し、経営層や社員との対話と判断に重点をおいてプロジェクトを進めます。深い議論が可能となり、高い当事者意識と深い納得感を形成します。
3. **判断の背景を共有し、戦略と表現をつなぐ支援**
   専門チームが、戦略やデザインに至る検討の経緯や判断の背景を整理・共有します。経営層や社員がブランドの方向性を理解し、共通の判断軸を持って、理念を社外に向けて表現し、現場の行動へと展開していくことを支援します。

■博報堂デザイン代表取締役社長 永井一史 コメント

「生成 AI がブランドの答えを出すのではなく、AI を使いながら企業自身がブランドの未来を選ぶためのソリューションを目指しました。社会の変化に向き合い、問いを深め、選択肢を比較し、自ら判断する。そのプロセスにこそ、これからのブランドを形づくる力があると考えています。」

■今後の展望

2026 年 10 月より、博報堂デザインが受託するブランディングプロジェクトに本ソリューションを組み込み、クライアント企業への提供を開始します。博報堂ＤＹグループの横断的な AI 専門家集団 HCAI Professionals の活動の一環として、専門チームがクライアント企業と対話しながら進行し、本ソリューションが社会変化の探索、仮説の比較、検討内容の編集を支援。実際のプロジェクトで検証を重ね、機能と社会変化情報を拡充・進化させていきます。

※1　未来洞察について

「未来洞察」とは、過去から現在までの出来事から線形に予測される未来（未来事象）と、非連続で不確実性の高い変化の兆し（未来兆し）を掛け合わせて、未来の機会（未来シナリオ）を描き出すシナリオプランニング手法です。 博報堂の「未来洞察」には、共創ワークショップ形式で「未来シナリオ」を作成して、未来像に対する「共鳴」と、それらの未来の実現に向けた「共創関係」を育むという特徴があります。博報堂はこの領域のパイオニアとして、25 年以上にわたる手法開発・探究と実践の歴史、そして 100 を超える企業・団体とのコラボレーションの実績を積み重ねてきました。特に、「生活者発想」「創造性」「共創技術」という強みを持ち、現在も、方法論自体の探究と産官学民との実践に両輪で取り組んでいます。

・博報堂 生活者発想技術研究所「未来洞察プロジェクト」
URL：https://hassogiken.jp/lab-project/mirai-dousatsu/

【本件に関するお問い合わせ】
株式会社博報堂テクノロジーズ　　広報担当 hr-koho@hakuhodo-technologies.co.jp
株式会社博報堂デザイン　　広報担当 info@hakuhodo-design.com
株式会社博報堂ＤＹホールディングス　　グループ広報・ＩＲ室 koho.mail@hakuhodo.co.jp